



## 2016年度 競技規則変更についての質疑に対する回答 改訂版

2016年5月29日

(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会

2016年7月1日より完全移行する競技規則に関し、各ブロック・都道府県より審判委員会へ寄せられた質疑に対して現段階で下記の通り回答する。ただし、今後IHF・国際ハンドボール連盟より通知される新競技規則書の内容によっては解釈に変更が生じる可能性があることを申し添えておく。

### 1 ゴールキーパーとコートプレーヤーの交代に関して

- ① Aチームは7名のCPで攻撃している。その時オフェンス(A2)はファンブルしたため相手ディフェンス(B7)がボールをキープした。ボールをキープした選手(B7)は、相手チームが7名のCPである状況を理解し相手ゴールに向けてシュートを打とうとした。それを見たファンブルしたプレーヤー(A2)が即座に2分間退場とする行為を行った為シュートができなかった場合は？

回答 これまで通り、ゴールエリアにGKがいない状況は明らかな得点のチャンスになります。この場合、誰が見てもB7はシュートを試みていたとレフェリーによって判断されたのであれば、再開は7mスローになります。違反行為が退場のプレーとは限定しません。

- ② Aチームは7名のCPで攻めている。その時オフェンス(A2)は、ファンブルしてイリーガルドリブルとなってしまう、レフェリーは笛を吹いて判定した。A2は即座にその笛に従い、床に向けてボールを放した。ディフェンスであった(B7)は、すぐにボールをキープして再開しようとしたが、A2は3mの確保をしなかった為、B7は意図したプレーを行う事ができなかった。以下の場合、再開方法及び罰則の適用をどのようにすればよいか？

回答 A2が3mの距離をとらず、そのことによりB7がスローできなかったことを前提に、

- (1) 再開のスローを明らかに相手ゴールに向かってシュートしようとした。

・・・A2を2分間退場 Bチームの7mスローで再開

- (2) 速攻の為、明らかに横方向にいる味方へパスをしようとした。

A2を2分間退場 違反のあった地点からBチームのフリースローで再開

(3) 明らかに速攻に走っている前方の味方へパスをしようとした。

A 2 を 2 分間退場 違反のあった場所から B チームのフリースローで再開

(4) 速攻ではなく、単なる再開の為、近くにいる味方へパスをしようとした。

A 2 に段階的罰則の適用 違反のあった場所から B チームのフリースローで再開

※ (1) ~ (4) の事例に関し、シュートを打とうとした、または速攻かそうでないかの判断はレフェリーに任せられます。レフェリーはコートプレーヤーが 7 名で攻撃している際、その後、上記のような展開になることも念頭に置き、状況に応じて的確に観察、判定をすることが求められます。

## 2 選手が負傷した場合に関して

遅延行為によりハンドボールの魅力を損なう事を防止するための規則であると理解してください。

① 選手に確認したが、返答がない場合はどのように対応すればよいでしょうか？返答がない場合は、役員を入場させる事を優先してよろしいでしょうか？

回答 レフェリーによる「プレーを続けますか？」の問い合わせに対し、返答できない状況や、返答しない状況の場合は、「では、役員を入れます。」の言葉の後、ゼスチャー 1 6 (入場許可) を行い、役員を入れてかまいません。

② 選手が自主的にベンチへ戻った場合は、3 回の攻撃完了条件の適用外と考えるとよいのでしょうか？

回答 その通りです。選手が (チーム役員の指示の有無にかかわらず) 「自分でコート外にでます」等の発言のあと、速やかにコート外に出た場合は、コート上で治療行為には該当しません。

③ コート上にいる味方選手がすぐに対応して倒れている選手を交代地域へ運び出した場合。

回答 (現段階では) 負傷と見なした場合、レフェリーのタイムアウトが必要です。したがってその後、味方選手によって運び出す場合もコート上で治療行為を行ったこととみなし、3 回の攻撃完了条件の適用になります。

- ④ GKに関してボールが頭部に当たった場合は適用外とありますが、腹部や急所の場合は不可としてよいのでしょうか？

回答 （現段階では）条文通り「頭部」のみとし、その他の部位には例外は適用しません。

- ⑤ 前半終了間際に負傷し、レフェリーがタイムアウトを取り入場許可をした。相手ボールで再開し前半終了の笛が鳴った。ハーフタイムのあと後半が始まったが3回の攻撃が完了するまでその選手は試合に出ることはできないのか？ハーフタイムのあいだに治療は終わった。

回答 3回の攻撃が完了するまでコートに入ることは許されませんので、例えハーフタイムに回復したとしても、3回の攻撃が完了するまではコートに入ることはできません。これは、現段階では延長戦以降でも適用されます。

- ⑥ レフェリーが負傷した選手に「プレーを続けますか」と問いかけると同時にベンチから指示が出て、すぐにベンチへ戻っていった。出血があったがその後すぐに処置を行って3回の攻撃が完了しないうちにコートに戻ってきた。

回答 コート上での治療行為ではないので、3回の攻撃完了を待つ必要はありませんが、出血の場合は止血やユニフォーム等の確認を別途TDによって行う必要があります。

- ⑦ 攻撃側のシュートが防御側の選手の頭部に直撃した。ゴールキーパーの頭部に直撃した場合はコートプレーヤーの場合と異なるとありますが、防御側の選手の頭部に直撃した場合はどうなのか。

回答 コートプレーヤーとしての適用を受けます。ただし、防御側プレーヤーの頭部に直撃した結果、攻撃側プレーヤーに罰則を与えることになった場合は、適用外となります。

### 3 パッシブプレーに関して

- ① 基本は、CR/GRの両レフェリーがパッシブプレーの予告を上げてから最大6回のパスとの事ですが、攻撃側プレーヤーが6回目や7回目のパスを行ったがキャッチしなかった（パスをスルーして）為、ボールが遠くに行ってしまう、相手チームが速やかな再開できなかった場合は何らかの罰則が必要なののでしょうか？

また、ディフェンスが近くにいる為、上記の行為を行い速攻のチャンスを与えないようにした場合に罰則は必要なののでしょうか？

回答 まず条文に「両レフェリーが」予告合図をしてからとは記載されていません。また判定についてはどちらか一方のレフェリーが判定してかまいませんので、仮に両レフェリーが同時に予告合図を示さなかった場合（インカム等で回数を確認することが理想です）は、はじめに予告合図を示したレフェリーに主導権があることをご理解ください。

パッシブプレーを判定した笛の前であっても、波線部にある行為が明らかにスポーツマンシップに反する行為であるとレフェリーが判断した場合は、平成27年度通達に則り、国内では罰則の適用とします。

- ② ディフェンスがパスをカットしてマイボールにしようとしたが、カットはできたがそのままサイドラインやゴールラインを越えてしまい、ボールの所持が変わらなかった場合はパスの回数に含めると読み取れますが、その再開でのスローインは1回と数えるのでしょうか？

回答 その通りです。パス、フリースロー、スローイン、シュートはすべて1回とカウントします。

また、スローインを1回と数える場合、スローインが7回目の場合スローインを行う選手は、シュートを狙わなければならないのでしょうか？

回答 （現段階では）6回目のパスを相手がカットしたがスローインとなった場合等の7回目は、「攻撃を完了させるためのパス」とあるので、スローインを行う選手にできるのは①「そこからシュートを打つ」あるいは②「最後にシュートを打たせる選手にパスをする」の2つしかないこととなります。

- ③ 6回目のパスを受けた後のシュートの場合において、ディフェンスがブロックした場合、どのタイミングでパッシブプレーの笛を吹くべきでしょうか？

回答 ブロックされた段階で攻撃は終了とみなされます。ブロックされたボールが味方のポストプレーヤーなどに渡ったとしても、攻撃を続けさせることはできません。レフェリーによる判定の笛は、相手チームのアドバンテージを考慮して、いいタイミングで吹くことが求められます。

- ④ 実際は6回までにパッシブプレーの判定がなされていると思いますが実際はもっとはやく対処する必要があるのではないかと？

回答 今回の改正点は予告合図を示してから、最大6回までのパスやシュートの機会を与えることです。最大6回ですので、それまでに笛が吹かれることもあります。パッシブプレーの考え方に変更はありません。予告合図を示し、組み立て局面を認めた後、パッシブプレーの判定をするまでに、6回目のパスを待たなければならないということではありません。

#### 4 終了間際(30秒)について

- ① 「延長戦にも適用する」とあり、延長後半と読み取れますが、よろしいでしょうか？

回答 その通りです。

#### 5 ブルーカードに関して

- ① これまではレッドカードを提示する時、できる限りペアで短時間の相談をするように指導がありました。今後もペアで確認した後レッドカードを提示してよいのでしょうか？

回答 その通りです。通信機器等で両レフェリーがレッドカードであることを確認する必要があります。ブルーカードの提示については、条文通り両レフェリーの合意の上、必要があれば提示することになります。

- ② どちらのレフェリーが示すのか？

回答 一方のレフェリーで構いません。レッドカードを掲げたレフェリーが一連の流れの中でブルーカードを提示する方がスムーズだと思います。一方のレフェリーがレッドカード、もう一人がブルーカードを掲げて、プレーヤーを両方向から指し、コートから目を離すことがないようにしてください。

※今後、競技規則に関する質疑等ありましたら、下記まで連絡をお願いします。必要があれば、IHF・国際ハンドボール連盟等へ質問し、回答を待つこととなりますので、速やかに返答ができない場合がありますが、ご承知おきください。

(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会  
競技規則研究委員会 委員長 福島 亮一

E-mail fukushima-r@tsubaki.higo.ed.jp  
または futkun1212jp@yahoo.co.jp